

投手の70球制限について

選手の肘、肩の障害予防として、一人の投手が一日に投球できる数は、

全学年共通で70球以内とする。

この投球制限は、選手が安全に安心して健康で野球を楽しむことを目的としている。

1. 実施方法

(1) 投球数のカウントは、JBLA で用意した器具を使用し、各チーム一名ずつ出し合い行う。

対戦相手チームの投球数をカウントし、双方で確認するものとする。

(2) 70球に達した場合、その打者が完了するまで投球できる。

例：3番打者の打撃完了時で68球、4番打者の1B-1Sで70球となった場合は、4番打者の打撃完了までは投球することが許される。

(3) ボークにもかかわらず投球したものは投球数に数える。

(4) 牽制球や送球と見なされるものは投球数としない。

(5) タイブレークになった場合、70球以内で投球できる。

(6) 投手が70未満で降板し、再登板した場合は以前の投球数を引き継ぐ。

例：背番号1が、42球を投げ降板した。その後、背番号1が再登板した場合の初球は43球目となる。

(7) 各イニング終了時に球審が確認をする。

※投球数が異なった場合、オフィシャルの投球数を採用する。

(8) 投球数を数える者は、ベンチ入りの人数とは関係ない。また、中立的な立場との自覚を持ちその場からの応援、指示等は控える。

(9) 投球数を数える場所については、各グラウンドの役員・審判員の指示に従う。

2. その他

(1) 投手の投球制限に関する規則は、ジュニアベースボールリーグ愛知（JBLA）の規則であるため、例えば午前中他の大会で、午後 JBLA の大会のようなケースでは、JBLA の試合のみで70球の投球制限を行うことは当然である。しかし、各チームには投球制限の規則の目的をご理解の上、自主管理を要望いたします。

(2) この規則は、2021年2月27日から適用する。

2021年2月13日

JBLA 審判長 加藤 孝弘
JBLA 審判技術部長 石井 利一